

# 「頑張ってね」より「頑張ったね」

～子どもたちを支援する立場から～

こ かにし えん  
子ども家庭支援センター  
あまぎやま (大牟田市)  
センター長 坂口 明夫さん



## 自身の経験を生かして

じつおや し かにし たんじょうび し ぎゃくたい う かにし そだ  
実親を知らない、家庭を知らない、誕生日を知らない、虐待を受けてきた、そして、7つの家庭で育ったのが私です。「いい子を演じよう」、「捨てられないようにしよう」と過ごしてきた経験が、私の場合は適応力や観察眼を育てたと思います。この力や経験が、今の仕事にも生きています。

たと わたし こ しせつ むか しょにち だいがうぶつ しょくじ ようい しょくいん ねが にゅうしょまえ  
例えば、私は子どもを施設に迎える初日は、大好物の食事を用意するよう職員にお願いしています。入所前の施設見学などで、こっそりと好きなものを聞き出しておくんです。何げない話を覚えてくれていたんだ、と大事にされる安心感を感じることができると思います。私もそれぞれの家庭の初日の食事は、今でも全てははっきりと覚えて

## 具体的な言葉で声掛けを

よく「頑張ってね」という言葉を耳にします。その言葉を掛ける前にまず、「頑張ったね」と声を掛けてほしい。今までの頑張りを認めることは、子どもにとって大きな糧になります。10回の「頑張ってね」よりも1回の「頑張ったね」のほうが効果的なんです。

また、大人の声掛けには具体性がないことが多いです。特に怒っているときは指示語だらけになってしまいます。具体的な言葉ではっきりと伝え、子ども自身が考えられるような声掛けをすることが大切です。

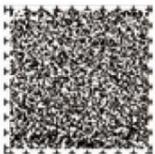
## 子どもの人権を守る

1994年、日本は「子どもの権利条約」に批准しました。しかし、今でも人権が守られず、支援が行き届いていない子どもたちが大勢います。そういった子どもたちを救うには、周りにいる大人の意識を変えていく必要があると感じています。普段の様子と違ったり、身だしなみが整っていなかったりと、少しの違和感に気付くことが子どもを救う一歩につながる場合もあります。

## 支援は「始縁」

家族だけではなく、近所の人との関係性も子どもにとって大切です。以前と比べて、そこが薄れてきている今だからこそ、支援から始まる縁は、子どもたちにとって貴重なものです。まさに支援は「始縁」です。家族以外の信頼できる大人の存在も、子どもが自分らしく成長するために、必要不可欠なものだと信じています。

支援を必要としている子どもへの理解を深め、常日頃からアンテナを張ること。これが子どもたちの人権を守るために、私たちにできる小さな一歩につながるのではないのでしょうか。



# すべての人が安心して暮らせる社会をめざして

く る め し こ しゃかい ち い き ま な か す ひとひと じんけん そんちよう あ  
久留米市では、子どもを社会・地域の真ん中に据え、すべての人々が人権を尊重し合う社会の実現をめざして、学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみで保育園・幼稚園・小学校・中学校の15年間を通じて人権の学びを重ねる「中学校区人権のまちづくり」を進めています。

## 中学校区人権のまちづくり

えん がっ こう がく しゅう  
園や学校での学習

ち い き がく しゅう けい はつ  
地域での学習や啓発

がく えん  
学園コミュニティ

ち い き  
地域コミュニティ

じどう せい と きょうしよくいん  
(児童・生徒・教職員)

じゅうみん かくしゅだんたい  
(住民・各種団体)

きょうゆう きょうかん きょうどう  
共有 共感 協働

こ ちから がくりよく ほしろう  
子どもたちの生きる力となる学力の保障  
たし じんけんにんしき ゆた かんせい がくしゅうりかいりよく  
(確かな人権認識、豊かな感性、学習理解力)

ち い き しょうがっこう ちゅうがっこう  
地域 (小学校区、中学校区) での  
がくしゅうかい こうえんかい  
学習会や講演会、フィールドワークなど

## 人権フェスタ・人権のつどい など

子どもの育つ姿を通してまちの姿を見つめ、  
人権が尊重されるまちづくりを!

## 『あなたは、あなたのままでいい』

子どもへのかかわりを通して、このメッセージを送り続けることが、子どもの尊厳を守ることにつながります。そのメッセージは、大人の生き方、生きやすさにもつながっていくはずですよ。

